



栄小学校だより

令和3年9月22日(水)

No.17

○学校での授業が再開されました。

新型コロナウイルスの影響で感染者数が増え、三重県で緊急事態宣言(9月中)が発令された関係から、鈴鹿市内の小中学校では登校を停止し chromebook を使ったオンライン授業を行ってきました。緊急事態宣言中ではありますが、鈴鹿市における感染者数が落ち着いてきたことから、学校での授業を21日より再開することとなりました。(21日~24日は午前中授業)27日(月)からは、給食も再開されます。

少しずつではありますが、正常な学校生活に戻ろうとしています。久しぶりに再会した友達と笑顔いっぱい楽しく学んでいる姿を見てとてもうれしくなりました。

【写真は各学年の「朝の会」の様子です。】



【保護者の方へお願い】 「家読(うちどく)」のすすめ

家読は、家庭での読書を通して、コミュニケーションを図ろうという取り組みです。特に決まったルールやスタイルはありませんが取り組み例を参考にして、各家庭の生活に合った方法を見つけてみませんか。

- 【取り組み例】
- 毎週1回程度「家読の日」を決めて、家族で読書をする。(1回10分程度からでも有効です。続けることが大切です。)
 - 大人が子どもに、子どもが大人に読み聞かせをする。
 - 家族のみんなで一緒に図書館等に行き、読みたい本を選ぶ。
 - 折り紙や料理の本等を一緒に読み、子どもと一緒に作る。
 - 家読メモを作り、家庭の読書記録を残していく。

小学校6年間は、生活環境等に大きな広がりを見せる時期です。低学年では楽しんで本を読み、中学年では読書の幅を拡げ自ら選んで読書をするようになり、高学年では読書を通して考えを広げたり深めたりするようになっていきます。

この時期に読書の楽しさに触れ、読書の習慣を身につけさせることは、その後の心身の成長・発達の上できわめて重要です。

学校においては、子どもの自主性を尊重しながら計画的な読書活動に取り組んでいますが、家庭でも読み聞かせや家族みんなで読書をする時間等をつくることで、子どもの読書意欲をたかめるような工夫をすることが大切です。

※読書をすることで読解力がつき、その力はその後、問題を読む力・考える力(すなわち学力)に成長する。

○秋の全国交通安全運動期間中です。

令和3年9月21日～30日の期間において秋の全国交通安全運動が実施されています。特に9月30日は「交通事故死ゼロを目指す日」とすることとされました。

全国重点要件として、

(1) 子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保

全国で交通事故死者数全体のうち、歩行者の割合が最も高い。

(2) 夕暮れ時と夜間の事故防止と安全意識の向上

秋口における日没時間の早まりで周囲の確認が遅れることや例年、夕暮れ時や夜間に重大事故につながる交通事故が多い。

(3) 自転車の安全確保と交通ルール遵守の徹底

交通事故全体に占める自転車関連の事故割合は増加傾向にあり、「自転車対歩行者」の事故件数も多く発生している。

※お子さんやご家族の自転車賠償責任保険への加入はお済ですか？(栄だよりNo.12を参照)

(4) 飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶

残念ながら、依然として飲酒運転での事故等が発生していたり、妨害運転(いわゆるあおり運転)も多数発生して社会問題となっています。飲酒運転については「しない。させない。」、地域や職場、家族での規範意識を持たせることが必要です。また、「思いやり・ゆずりあい精神」での運転やドライブレコーダー等の設置の促進をしていきましょう。

次代を担う子どもたちのかけがえのない命を社会全体で交通事故から守りましょう。

○まもってくれてありがとう運動実施中！

9月21日(火)～9月30日(木)にかけて、「まもってくれてありがとう運動」を実施しています。日頃、登下校の交通指導・見守り活動にご尽力いただいている皆様の活動にとくに感謝をする期間です。

令和3年度の栄小学校では、次のことを重点的に行います。

①登下校中の交通指導・見守り活動をされている方にあいさつをします。

②安全に登下校できるように交通ルールを守ります。

③信号のない横断歩道では、「ハンドサイン」をして、自動車等の運転手に横断する意思を伝えます。

【三重県警察より】

三重県警察では、令和3年7月1日から「横断歩道”ハンドサイン”キャンペーン」を実施しています。

信号機のない横断歩道を渡るときは、

1 少し手をあげる、運転者に顔を向けるなどして、運転者に対して横断する意思を明確に伝えましょう。

2 安全を確認してから横断を始めましょう。

3 横断中も周囲に気を付けましょう。

4 車が止まった時は軽く会釈するなど、感謝の気持ちを伝えましょう。

日本自動車連盟(JAF)が実施した「信号機のない横断歩道に関するアンケート調査」の結果、横断歩道に歩行者がいても一時停止をしない理由として、約4割の運転者が「歩行者が横断するかどうか分からない」と回答しています。

また、信号機のない横断歩道における車の一時停止率調査では、手をあげずに横断する場合の停止率37.4%に対して、手を少しあげて横断する場合の停止率は85.1%と、大幅にアップしたという結果が出ています。

運転者に対して横断する意思を明確に伝える「ハンドサイン」に、みんなが取り組みましょう。